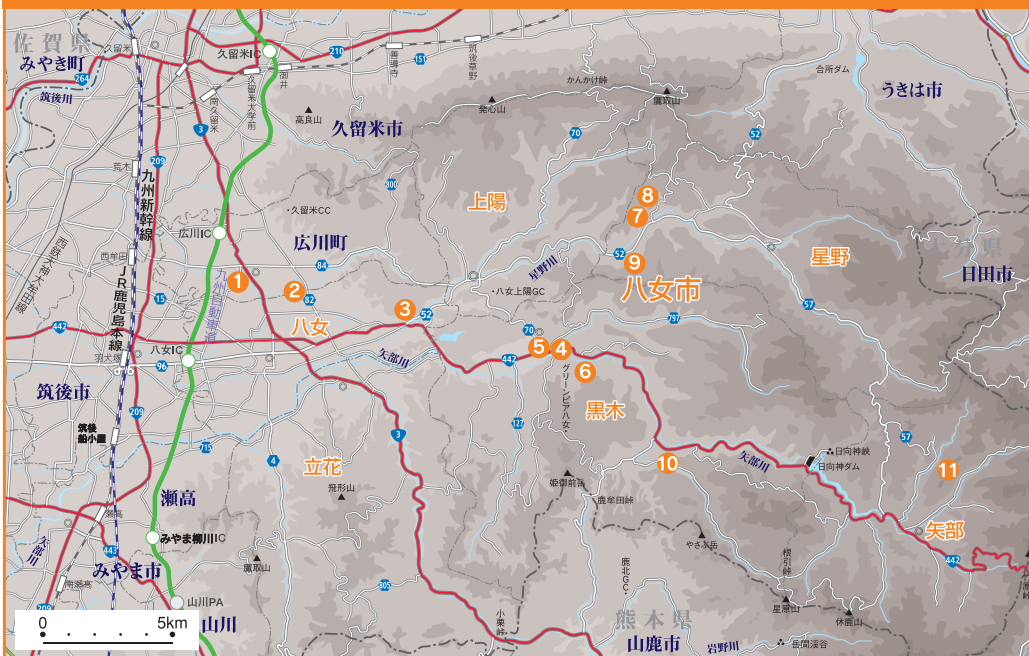


# 観る 知る 学ぶ 八女は楽しい



- ① 太田清水の戦 (広川町・太田)
- ② 豊福原・六段河原の戦 (広川町・六田・八女市・豊福)
- ③ 懐良親王お手植えの伝承をもつチャノキ(山内)
- ④ 良成親王お手植えの伝承をもつ大藤(黒木)
- ⑤ 学びの館(黒木)
- ⑥ 木屋行實の墓(黒木)
- ⑦ 大円寺資料館(星野)  
(懐良親王ゆかりの資料館)
- ⑧ 懐良親王御墓所(星野)
- ⑨ 小野神社(星野)  
(懐良親王の星野御在所跡)
- ⑩ 五條家(黒木)  
◎毎年9/23には御旗祭があり、「金烏の御旗」など南北朝時代の文化財が公開される
- ⑪ 良成親王御陵墓(矢部・大仙公園)

## 福岡市内からの日帰りモデルコース

|       |                                                  |
|-------|--------------------------------------------------|
| 9:00  | 福岡市内 出発<br>九州自動車道～広川インター                         |
|       | (星野)大円寺資料館 ⑦<br>懐良親王御墓所 ⑧<br>小野神社 ⑨              |
| 12:00 | 昼食                                               |
|       | (黒木)学びの館 ⑤                                       |
|       | (矢部)良成親王御陵墓(大仙公園) ⑪<br>八女津媛神社<br>日向神ダム近辺(けほぎ岩など) |
|       | (国道442号で八女インターへ)<br>(八女インター～九州自動車道)              |
| 18:00 | 福岡市内 帰着                                          |

八女市中心部への交通アクセス  
【J】博多駅→羽犬塚駅→堀川バス→八女市内  
 【西鉄】福岡駅→久留米駅→西鉄バス→八女市内  
 【お車でお願いします】  
 九州自動車道経由:八女インターを下りて約10分  
 九州自動車道経由:広川インターを下りて約20分



## 茶のくに 八女・奥八女



時は南北朝時代。  
 征西將軍宮・懐良親王を中心に  
 九州で繰り広げられた壮絶な戦。  
 クライマックスで八女は  
 時代の舞台となったのです。



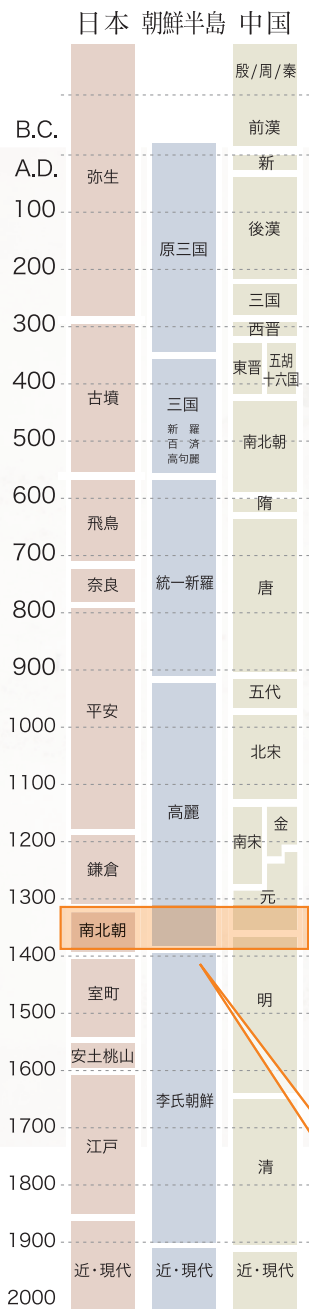
# 南北朝動乱のドラマ

八女市観光振興課 TEL.0943-23-1192

〒834-0031 福岡県八女市本町2-129



## 東アジアの時代背景



## 悲劇のドラマ クライマックスの舞台は八女

鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇がしいた建武の新政も、足利尊氏らの離反により終わりを告げます。吉野に逃れた後醍醐天皇の南朝と、足利尊氏が京都に光明天皇を擁立した北朝に分かれ、正統を争う南北朝時代が約60年間続きました。その終わりの頃、北部九州は壮絶な戦いの舞台となりました。奥八女には征西将軍宮・懐良親王や南朝最後の親王である後征西将軍宮・良成親王の御陵墓ほか、ゆかりの地が数多く残っています。

朝廷が南朝と北朝に分かれた特異な時代。  
北朝を支えた足利尊氏が室町幕府を開く

## 建武の新政

鎌倉時代末期、後醍醐天皇が全国の武士に倒幕を呼びかけた。新田義貞、楠木正成らの働きで倒幕、後醍醐天皇による新政が始まった。

## 南北朝時代

足利尊氏の離反で建武の新政が途絶え、尊氏が擁立した光明天皇（北朝）と吉野にこもった後醍醐天皇（南朝）に分かれて約60年間、正統を争うことになる。

## 九州での情勢

新田・北畠軍に敗れた足利尊氏は、九州に下って芦屋に上陸する。

## 太田清水の戦

南朝方の菊池氏らと北朝方の少武氏らの戦い。多々良浜の戦の前哨戦となる。

## 多々良浜の戦

足利勢1000人以下、菊池勢2万人。勝敗は明らかに見えたが、風が激しくなり風下の菊池勢には目も開けられない砂嵐が吹き付けて菊池氏は敗走したとも。

## 征西将軍宮

吉野の後醍醐天皇は皇子たちを各地に派遣、九州へは第16皇子の懐良（かねなか）親王に全権をゆだね征西将軍宮として派遣した。8歳の親王が吉野を出発した時から側で仕えた五條氏が、ともに九州でドラマを生んでいく。

## 懐良親王、鹿児島上陸

吉野を出発後、四国を経て薩摩半島山川に上陸、谷山城を拠点に北上を開始。以後、肥後の菊池氏が支え続ける。

## 肥後隈府（わいふ）に到着

戦い続けて北上、ようやく菊池氏の本拠に到着。このときすでに懐良親王19歳。大宰府の少武氏と争いながらクライマックスへと向かう。

## 大保原の戦

筑後川をはさんだ最大の合戦。激しい戦いを終え、菊池武光が川で血刀を洗うと川は刀の血で朱色に染まったという伝説が「大刀洗」の地名の由来。親王が陣をしいたところが「宮ノ陣」など、ゆかりの地名が今も残る。

## 大宰府に征西府を置く

懐良親王は御在所を大宰府におき菊池武光が補佐。南朝の黄金時代が12年間続く。

## 京より今川了俊が九州へ

九州探題に任命された了俊に追われた懐良親王は、久留米・高良山へ敗走し、さらに星野・矢部の奥地へ。

## 南北朝の合一

1392年、南朝の後龜山天皇が皇位の象徴である三種の神器を北朝の御小松天皇に譲り「南北朝合一」が実現。

## 南朝最後の親王・良成親王が眠る大仙御陵墓

懐良親王は甥の良成親王に征西将軍職を譲り、奥八女で余生を送る。南朝最後の良成親王も矢部で余生を送り、今も宮内庁陵墓「大仙御陵墓」に眠る。

「志村」は「血村」か？  
船小屋近くの志村は戦いで多くの血が流れ血村といわれるようになった。後に、地名は縁起いものにと、志村と変えたとも。

北朝方の太宰府、南朝方の菊池、どちらか端を発しても八女丘陵は中間地点だったので、幾度も戦場となった。

7～8歳の男子は  
神＝幸運が最も寄りつくと言われる

伝説の武将・菊池武光  
勇猛でならず武将。数々の伝説を残す。大保原の戦の戦場となった現・大刀洗町に、勇ましい銅像も建つ。

九州統一を夢見た。激しく戦い、散った。  
南北朝時代、奥八女のドラマをたどる



# 戦陣に凜とはためいた「金烏の御旗」

後醍醐天皇の幼い皇子、征西將軍宮・懷良親王が吉野を発つときから側で仕え続けた五條氏。その末裔が今も八女市黒木に住み、後征西將軍宮・良成親王の御陵墓を守っています。

## 『御旗祭』 毎年秋分の日

宮内庁陵墓守部(しゅぶ)として「大仙御陵墓」を守る現・五條家当主は、懷良親王に仕えた初代・五條頼元から数えて24代目。この間、南北朝時代のゆかりの品が大事に守られてきました。年に一度、虫干しを兼ねて「金烏の御旗」などの貴重な歴史資料が一般公開されます。



問い合わせ：八女市教育委員会 文化振興課(0943-23-1982)

### 五条家文書(全17巻)

(国指定重要文化財)



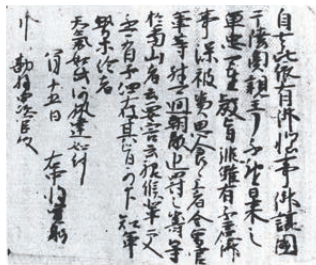
明治時代、旧家の古文書調査で調査官が驚いたという第一級の史料。南北朝当時の重要な巻に始まり、菊池家・阿蘇家・大友家・加藤清正などに関連深いものが揃います。

### 五條頼元着用の鎧兜



槍で突かれた穴、切れた糸など戦の跡が生々しい。

### 良成親王着用の具足



### 後醍醐天皇<sup>りんじ</sup>綸旨

(国指定重要文化財)

後醍醐天皇が亡くなる前日に側近の公卿によって書かれた命令書。また遺言書ともなっている絶筆です。当時、密書は襟に縫い込んだりして運ばれたが、これはまげの元結として運ばれたとか。約9センチ四方の小さなもので、御旗祭ではこれも一般公開されます。

### 八幡大菩薩旗(金烏の御旗)

(国指定重要文化財)

戦の先陣で掲げられていた御旗。金の烏(カラス)は太陽を表す。4人の皇子に与えられたといい、現存するのは五條家だけです。



### 襖絵

明治時代に描かれた「大保原の戦」の一幕。親王のお顔が松の枝で隠されていたり、菊池武光が川で刀を洗っていたり、たくさん話が盛り込まれています。

五條家には、南朝、北朝、双方の武家文書が残っています。戦に敗れた側の史料は残りにくく、南朝方の豊富な史料が残される当家は、歴史の生き証人です。

(写真:五條氏提供)



## 南朝最後の親王 良成親王墓「大杣御陵墓」

戦いに敗れ、奥八女・矢部で余生を過ごした良成親王。奥深い森に包まれ静かに暮らし、この地で亡くなりました。「大杣御陵墓」は宮内庁陵墓として管理されています。



### 良成親王墓

後征西將軍宮 良成親王墓は、明治11年(1878)に現在の宮内庁が陵墓に認定し、代々、五條家の子孫が守部(しゅぶ)に任命され御陵墓を守っています。

### 後征西將軍宮 良成親王と五條氏

五條家には天皇給旨(りんじ)や武家文書など南朝方の動向をうかがい知る「五條家文書」が369通残されています。なかでも良成親王から17通が五條氏に発せられ、当時の五條家当主の頼治・良量に宛てた文書(もんじょ)には、懐良親王が亡くなられた年時が確認できるものや親王の人柄・学芸に秀で教養の高さがうかがわれる書状もあります。

五條家に残る南朝方の文書は、敵陣をかいめぐり密かに遠く九州まで届けるため、使用される和紙は、小型の切紙が多く用いられているのが特徴です。

### 大杣公園祭

毎年、良成親王命日の10月8日に行われ、約600年前から続いている由緒ある祭り。この地で亡くなられた親王の御霊を慰めるために、御陵墓の前で、公卿唄(くげうた)や浦安の舞が奉納されます。

### 浦安の舞

昭和15年に皇紀2600年を記念して作られた神楽舞。「うら」は心を指す古語で、「うらやす」で心中の平穏を表す語として、「波立たぬ世」を願い巫女たちによって奉納されます。

くげうた

### 公卿唄 (市指定無形文化財)

良成親王が矢部の里に籠られた折、京都からお供してきた公卿たちが唄って慰めたといひます。この里の「祝い唄」として、今も唄い継がれています。

### 「御側」(おそば)の地名

この御陵墓に向かう道沿いの小さな集落は「御側」と呼ばれます。親王お付きの人々が近くに住んだことにちなむ名といひます。



### 自然を満喫できる施設「秘境 杣の里溪流公園」

大杣公園をさらに奥へ登っていくと、「杣の里溪流公園」があります。奥深い森に包まれた宿泊施設で、釣りや陶芸体験を楽しむ家族連れに人気。南北朝のロマンを散策したあと、ゆっくり滞在するのにお勧めです。

(TEL.0943-47-3000)



「杣人の家」(TEL.0943-47-2173<不定休>) ※不在の時は上記「杣の里」へ  
杣(そま)とは木こりのこと。林業が盛んなこの地は立派な木造の家も多い。「杣人の家」は140年前の古民家を改修して食事どころとなっている。どっしり太い大黒柱が深いツヤを放っている。「公卿さん懐石」という料理も用意され、囲炉裏を囲んでのヤマメの塩焼きは絶品です。



# 懐良親王にゆかりの「大円寺」

星野は懐良親王にとって要害の地、癒しの地でありました。大円寺資料館には、懐良親王ゆかりの品や多くの歴史資料が展示されています。(TEL.0943-52-3547)



大円寺(星野)

## 征西府の最盛期

勇猛で名高い菊池武光とともに九州を制圧して十数年戦った懐良親王は、ついに南北朝時代最大の合戦「大保原の戦」(現在の小郡市)で北朝方に討ち勝ち、大宰府に征西府をおきました。それまでの戦いの中でも、星野は要害の地、癒しの地であり、親王はたびたび星野に入ります。その後、九州探題・今川了俊に追討されるまでの12年間が征西府の最盛期でした。敗れて傷を負った懐良親王は星野に入り養生に専念、良成親王に征西将軍職を譲ってからは大円寺で余生を送ったといわれています。



懐良親王墓所(星野)



大円寺資料館



「大保原の戦」合戦図



菊池千本館



懐良親王像(懐良親王顕彰会提供)



菊と桐の御紋(星野・大円寺提供)

## 大円寺と懐良親王

大円寺の襖の下張りから菊と桐の御紋が発見されました。これは親王在住時の菊の間、桐の間のなごりと伝えられています。

## 福田衣(ふくでんえ)

懐良親王三百回忌に五條氏より奉納された品。象牙の環の刻銘により親王御入在などを示す重要史料。



福田衣(大円寺所蔵)

## 懐良親王御墓所と資料館

1383年に55歳で亡くなると御遺体は裏の大明神に埋葬されたといわれています。山頂の墓所では赤い旗が今もたなびき、ふもとからも見えます。(懐良親王御陵墓については諸説あり、宮内庁は熊本県八代を認定しています)。大円寺の資料館には、「大保原の戦」の戦図や、刀、古文書、星野氏の系図などが展示されています。



# 懐良親王を支え続けた武将たち

懐良親王にとって、星野や黒木は心強い味方の地でした。  
奥八女の城主たちは南朝方を支えました。



鷹取城跡(星野)

## 星野氏

星野氏は、南北朝の戦では南朝・懐良親王の力強い味方であり、親王は深い傷を負ったときも星野へ逃れて静養しました。星野は山が険しく自然の砦として外敵の侵入を拒みます。深い山中は山の民でないと案内できなかったともいわれています。星野氏は耳納連山に鷹取城という山城を築き、菩提寺は懐良親王ゆかりの大円寺であり、星野谷全域に大きな勢力を誇りました。



猫尾城跡(黒木)

## 黒木氏

黒木氏は、平安末期に大隅国根占郷(鹿児島県南大隅町)から筑後国黒木郷に移り、その後猫尾城を築き、豊臣秀吉の九州平定の際に廃城になるまでの城主でした。南北朝時代は懐良・良成親王に忠誠を尽くしましたが、猫尾城は北朝方にたびたび攻められ激しい戦いの場となりました。頂上には今も本丸入口に石垣が残っています。

## きや ゆきざね 木屋行實

木屋行實は、黒木氏と共に郷土の若者を率いて戦い、菊池氏、五條氏らと協力し懐良親王を支えました。「大保原の戦」の際には、合戦前の小競り合いで行實が先頭で夜襲をかけ、合戦の火蓋が切られたそうです。黒木の木屋邸の裏山、一段高い所に墓があります。「木屋文書」には戦の様子が描写された貴重な史料となっています。



木屋行實の墓(黒木)

ほかにも立ち寄りたい  
ゆかりのスポット

## 星野「小野神社」



### 猿田彦、猿田媛!?

道行の神、猿田彦はよく見るけれど、「媛」は珍しい。全国でも見かけることはまれです。



## 小野神社の前のバス停

小野神社付近には、親王の滞在を示す「内宮」(ないく)という親王ゆかりの地名が残っています。

## 黒木「素盞鳴(すさのお)神社」

### 老舗の酒蔵も楽しみ

大藤の通りには古くから続く酒蔵が立ち並んでいます。毎年春に行われる大藤まつりでは、蔵開きや古酒を貯蔵している矢部線(廃線)跡のトンネルが公開され、試飲もできます。



大正時代の古写真



## 懐良親王お手植えのイチヨウ

南北朝の戦がクライマックスを迎えたころ、今川了俊から追われ敗走した親王は高良山へ。傷を負った親王は、さらに奥地へ引き、この星野の「小野神社」へ御在所を構えました。天に届くような大イチヨウは懐良親王お手植えとの伝承があります。



## 良成親王お手植えのフジ

奥八女でゆかりの地を歩くなら、黒木のフジは必見です。良成親王お手植えとも伝えられています。境内を覆う藤の花は見事で、大勢の観光客が見物に訪れます。



# 神話や伝承も息づく

奥八女を巡ると、戦のころに要害の地であったことがうかがえます。深い山々に囲まれ、数々の神話や伝承が残されています。神代の世界に思いをはせてみませんか。



## 天孫降臨の神話

### 神が乗る馬が蹴った「けほぎ岩」

天孫降臨神話でニギの3子が誕生したのはこの地であり、うち2子が日向国へ移り、ホアカリがこの地へ留まった、という神話が残っています。その神が馬に乗り天を駆けるうち、馬のひづめがあたり岩に穴が開いたのが「けほぎ岩」と伝えられ、切り立った岩肌は神秘的です。



### “日向神（ひゅうがみ）”の由来は？

天照大神が日向国から伊勢へ移れる途中、「もう見おさめだろう」とこの地に降り立ち日向国をふり返ったといわれます。日向を見たので「ひゅうがみ」。そんな伝承も残されます。

日向神の千本桜  
この桜は本当に千本あるんです！と地元の方が熱弁。春には神話の里が見事な桜で包まれます。



## 八女の由来



八女津媛神社  
樹齢600余年の権現杉、神ノ窟（かみのいわや）など神秘的な空気の中に八女津媛神社がある。新緑も紅葉も見事。

### “八女”の地名のおこりは？

「やめ」の由来にはいくつもの伝承があり、どれも奥深いものばかり。

#### 『日本書紀』と景行天皇

有名なのは『日本書紀』の一節。景行天皇が遠くの山を仰いで問うた時の「八女津媛」（やめつひめ）

#### 『住吉大社神代記』

最近まで門外不出とされた住吉大社の縁起書で、『日本書紀』の11年後にまとめられたもの。そこには「八神女津媛 常居山中」とあり、「神」の一字が付いている。

#### 星野の八女星伝説

星野は近世まで妙見信仰が盛んであった。北斗七星を七女星（＝妙見さま）に見立てる習いがあり、それに北極星を加えて「八女星」。「やめ」の起こりはそこからという伝承も。

「八女津媛神社の浮立」（県指定無形民俗文化財）  
八女津媛を祀り、五穀豊穡を祈り奉納される。



景行天皇は問うた  
「東の山々は幾重にも  
重なつてまことに美しい。  
あの山にたれか住んでいるか」  
水沼の県主（みぬまのあがたぬし）  
が答えた  
「山中に女神あり。  
その名を八女津媛といい、  
常に山中にいる」  
日本書紀 巻第七 景行天皇



# 南北朝ゆかりの地で、 心癒される一日を。

南北朝の戦ゆかりの地、  
秘境・奥八女。  
自然やお茶やまつりな  
どの楽しみも盛りだく  
さんです。

## 星野 広内・上原の棚田

「日本の棚田百選」にも選ばれている広内・上原地区の棚田。美しい景観が織りなす奥八女の代表的な風景です。山を切り拓く中で発生した石を一つ一つ積み上げられた棚田からは、先人の知恵や工夫がうかがえます。

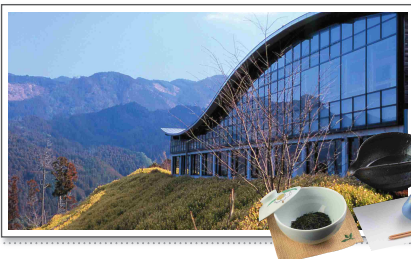


## 『日本で最も美しい村連合』

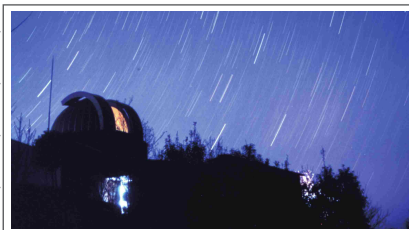
八女市星野は、美しい棚田の景観とそれを守り続ける住民の活動及び高級茶ブランド「星野茶」の生産の取り組みが評価され、2009年10月より「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。

## 星野 茶の文化館 0943-52-3003

山々に囲まれた星野を一望する丘に建つ「茶の文化館」。特産品であるお茶をテーマとした全国でも珍しい施設です。茶の歴史や製法を紹介した展示ホールや抹茶のひきうす体験コーナー、伝統本玉露の美味しさを最大限に引き出す「しずく茶」などを楽しむことができます。



## 星野 星の文化館 0943-52-3000



九州最大級の口径65cmの大型望遠鏡を備えた星の文化館。空気が澄みわたる星野で眺める四季折々の星空の美しさは格別です。プチホテルや、八女市の食材を生かした欧風レストラン「北十字星」もあり、ゆったりとした時間が流れます。

## 矢部

観光物産交流施設

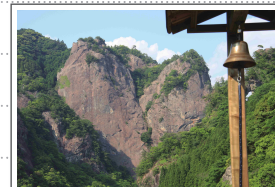
柿のさと 0943-47-2500

矢部村の魅力がギュッと満載した交流施設。店内には物産スペースやレストランがあり、ホッとするひとときが過ごせます。



## 矢部

ハート岩



日向の神々の伝説が残る日向神峡にある恋愛成就祈願のパワースポット。ハート岩を望む「けほぎ橋」にある「幸せの鐘」を鳴らせば、あなたも恋愛成就！

## 黒木

学びの館 0943-42-1982



八女地方は古代から石造文化が発達し、「学びの館」では多様な石積みを見学できます。展示室では南北朝時代の文化財である「五条家文書」の複製が展示公開されています。

## 小説『武王の門』

作家・北方謙三氏の人気作。南北朝時代、吉野から九州へ渡ってきた懐良親王と肥後の勇猛な武将・菊池武光を主人公に、九州から朝鮮半島までを舞台に親王の人生を描いた壮大な物語。八女地域の深い山々や川が、懐良親王の生きた時代の舞台だったことを実感し、気持ちが湧き立ちます。この物語に出てくる話が、八女地域を歩くとそこかしこに数多く残っています。

(新潮文庫)

